

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

31年1月23日

三田市議会議長 厚地 弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	佐貫尚子		
視 察 先	山口県 光市 周南市		
調査事項 (調査目的)	光市 : 特色ある給食センターについて 周南市: 公共施設再配置の取り組みについて		
日 時	31年1月15日(火)～ 31年1月16日(水)		
視察先対応者	光市役所 : 議長 西村憲治 議会事務局次長 国広公平 光市立学校給食センター所長 清水俊宏 業務係長 山田久敏 周南市 : 議長 小林雄二 議会事務局 磯部雄太 政策推進部次長兼施設マネジメント課課長 中村和久		
添付資料	光市 : 光市の給食について : 光市立学校給食センター概要 周南市: 周南市の公共施設再配置について : マンガで見る再配置の取り組み、公共施設再配置計画 公共施設白書 : 公共施設再配置(長穂かわら版)		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	<p style="text-align: center;">31年1月15日（火）13時30分～15時00分 1月16日（水）10時00分～12時00分</p>
視察先	<p style="text-align: center;">山口県 光市 周南市</p>
調査事項	<p>光市 : 特色ある給食センターについて 周南市 : 公共施設再配置の取り組みについて</p>
<p><b>（所見）光市 特色ある給食センターについて</b></p> <p>光市では2か所の給食センターで市立小中学校16校に給食を提供していたが、両施設とも共用開始から30年以上経過しており、老朽化が著しく国の定める衛生管理基準に適合していない等の課題があり、現行施設の増改築等による改善が困難なため、新たな学校給食施設整備に着手、26年9月から共用開始を目指す。平成16年光市と大和市が合併し光市が誕生し新市建設計画に学校給食施設整備を記載。平成21年度に各種団体から委員を選任し学校給食施設整備検討委員会を設置。光市の給食センターの概要については、プロポーザル方式で事務3名、栄養士3名、調理員40名（日平均32名）配送員8名 パン担当3名とされている、長期休暇には調理室、センター内の清掃や、様々な業務に従事。新しい給食センターでの取り組みについては、地産地消の推進・調理法の多様化・食物アレルギー対応食の提供をあげており、以前は市外からパンを購入していたため、市内業者への影響がなく、子供たちに当日焼たてのパンを食べさせたいとの思いから、公設民営の農業拠点施設に米粉製造機器が整備されここで、製造される光市産の米粉を使いパンをつくることで、地域の産物について理解を深め、生産者とのつながりを持つことができ、地産地消の推進にもなっている。センター内にパン製造設備のメリットとしては、出来立てのパンが提供できる。パン単価が約30円安価となるため、安価となった金額を主菜、副菜に投入でき、給食の質が向上し約12円分質の向上が図られるとのこと。他に世界の料理（外国語指導員の出身国の料理、世界レベルのスポーツ大会開催地などにちなんだ料理も提供している。また、子供たちに喜ばれている行事ごとに献立られるセレクト給食というものがあり、行事にちなんだデザート3種類の中から事前に子供が選択し、当日自分が選んだデザートが食べられるという楽しい取り組みもされている。最近のはアレルギーを持つ児童も増え、当給食センターではアレルギー対策室を設置し除去食を作る対応がなされ、きめ細やかに食育推進に努められています。センター建設後は毎月、月一回40名ほど募集した給食試食会、幼稚園、保育園の保護者が給食に関し、不安等を防ぐ為の試食会も随時受け付けるなど、給食への理解と、安心を提供できる取り組みもされ、新しい給食センターでの取り組みを発信し続けている。特に、今回の視察で感じたことは、地産地消の取り組みの中で、市内業者を利用することで子供たちが光市で作られた野菜や、お米で給食献立が出来ていることを、食を通じて教えられていることが、素晴らしいと感じる。パンだけに限らず、週3回のごはんも給食センター内で炊いたものであり新しい給食センター整備が子供たちの食育に効果的な影響を与えていると、今回の視察で認識したことであります。三田市も児童生徒の減少により、再編計画を進める中で給食の提供の在り方もこのまままでいいのか、考える時期でもあるとも思う。</p>	
<p>交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）</p>	

調査日時	<p style="text-align: center;">31年1月15日（火）13時30分～15時00分 1月16日（水）10時00分～12時00分</p>
視察先	山口県 光市 周南市
調査事項	<p>光市 : 特色ある給食センターについて 周南市 : 公共施設再配置の取り組みについて</p>
<p><b>（所見）周南市 周南市の公共施設再配置について</b></p> <p>周南市は平成15年4月21日2市2町合併し周南市が誕生し、現在、人口14万3千人で公共施設がインフラ系、ハコモノ系等を含め1114施設あり、再配置計画を進めている。この再配置計画の中では、施設分類別、地域別、長期修繕、長寿命化計画の4つがあげられている。その中の地域別計画については、地域住民と行政職員がワークショップを開くなど、両者で意見交換をする機会をもち協議がされています。そうした協議の中でモデル地域として進めた結果支所、公民館の移設と小学校の廃止が決まった事例があった。</p> <p>市の考えとしては、地域の計画では優先的に対応すべき施設がある地域から策定を行っていくことを前提として、市内一斉ではないとのこと。</p> <p>地域住民と、行政側とのワークショップで議論した内容などを地域住民に理解を得る、内容を知ってもらうために、（かわら版）を作成し、地域全戸配布するなど、丁寧な情報提供がされていた。</p> <p>こうしたきめ細やかな取り組みは地域住民に理解や、安心を与えられるものでとても良い取り組みだと思う。また、今回の公共施設の廃止や、見直されるものに対しどの世代にも理解が得られるようにマンガを作成するなどの取り組みもされていた。担当の職員からはじっくりと住民と話し合う事公共施設の見直しは、なぜ必要なのかを住民に情報提供し、共通認識をもってもらう事が大切としていると聞かせて頂いた。ワークショップを開催についても地域コミュニティ関連の方と、幼稚園、学校に通う子供をもつ保護者とを別々に開催されるなど</p> <p>それぞれの立場で議論が出来ることは意見を集約するにも合理的であると感じ、三田市においても各論よりも、大きなくくりで地域住民と議論をしてほしいと改めて感じた視察であった。</p> <p>交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）</p>	

# 光市の給食について

- 給食センターの概要
- 給食センターの取組みについて
- 目指すべき光市の給食

光市立学校給食センター

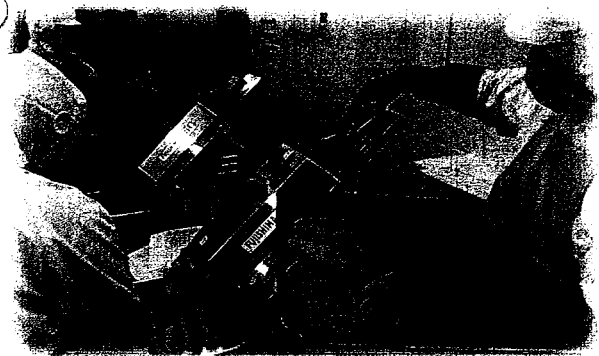
## 光市立学校給食センター概要①

	旧光市域 (旧光センター)	大和町域 (旧大和センター)	光市立学校給食センター 平成30年度
食数	約3,420食	約480食	約3,900食
配送校	11校	5校	16校
小学校	7校	4校	11校
中学校	4校	1校	5校



# 光市立学校給食センター

市内小中学校16校の給食を調理しています。



## ○光市立学校給食センターの基本方針

安全・安心な学校給食

栄養バランス・多様性に配慮した学校給食

食育の推進

長期的な安定運営



# 公共施設再配置計画の内容について

13

## 公共施設再配置計画策定について

■行政改革推進本部・議会特別委員会を経て策定

策定時期：平成27年8月 ※県内2番目

総ページ数：317ページ

対象施設：

- 庁舎、市民交流、文化、スポーツ、こども関連、福祉、学校、公園、墓地、インフラ系ハコモノ等を含め

1,114施設 84万9,016㎡

- 道路、橋梁、上下水道管渠、漁港施設、河川、農道、林道

14

平成30年度版  
周南市の概要



周南市議会